

グループホーム緑樹の家

(別紙6)

[認知症対応型共同生活介護用]

1. 評価結果概要表

作成日 平成19年9月19日

【評価実施概要】

事業所番号	0970800652		
法人名	医療法人三緑会		
事業所名	グループホーム緑樹の家		
所在地	栃木県小山市大字卒島98 (電話) 0285-32-1121		
評価機関名	社会福祉法人栃木県社会福祉協議会		
所在地	栃木県宇都宮市若草1-10-6		
訪問調査日	平成19年9月5日	評価確定日	平成19年9月19日

【情報提供票より】(平成19年8月19日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成15年1月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	9 人	常勤7人, 非常勤2人, 常勤換算8.5人	

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨造り 2階建ての1階部分
------	-------------------

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	50,000 円	その他の経費(月額)	・理美容代-実費 ・おむつ代-実費 ・医療費・薬代-実費
敷金	有(100,000円)		
保証金の有無(入居一時金含む)	有(100,000円)	有りの場合償却の有無	無
食材料費	朝食	200 円	昼食 300 円
	夕食	300 円	おやつ 150 円
	または1日当たり 円		

(4) 利用者の概要(平成19年8月19日現在)

利用者人数	8 名	男性 1 名	女性 7 名
要介護1	3 名	要介護2	4 名
要介護3	1 名	要介護4	名
要介護5	名	要支援2	名
年齢	平均 83 歳	最低 61 歳	最高 96 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人三緑会 おやまにし病院
---------	-----------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当ホームは市郊外の田園地帯にあり、自然豊かな環境の中にある開設5年目のホームである。隣接する敷地には法人の病院、老人保健施設があり、入居者の医療面において連携が図られている。居室は、和室と洋室が用意され、四方の廊下から見える中庭の花壇や菜園など季節を満喫することができ、中庭につながるようサンルームがある。「一人ひとりを大切にゆったりとした生活を送る」ことを理念として掲げ、管理者及び全職員が入居者が安心して生活できるよう支援している。今後、運営推進会議を2ヶ月に1回定期的に開催してホームの課題等の解決の検討の場として活かし、更なる充実を目指しているホームである。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>月1回の職員会議で話し合いのうえホームの理念をつくるなど、改善できるところから取り組んでいる。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>今回の自己評価は、管理者及び介護支援専門員が全職員に説明し、職員から意見を聴取し、話し合いを行い、最終的に介護支援専門員がまとめた。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議には、民生委員、地域包括支援センター職員、入居者家族が参画しており、開設以来1回開催されている。自治会、行政は参画していない。会議では課題等をあげ、解決を図るための討議がなされている。市とは連携が取れている。</p>
	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>家族の訪問時に声をかけ、入居者の状況を伝えたり要望を伺っている。ホームだよりは発行していない。重要事項説明書には苦情についての説明はあるが、苦情責任者の明示や連絡先がない。また、市及び国保連等の連絡先の明記はない。</p>
重点項目③	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>自治会には加入したが、運営推進会議には自治会からの参画はない。自治会や地域との関係づくりに腐心しており、地域の行事等に参加する機会はない。今後、ホームの行事やボランティア等積極的に参加の呼びかけをして交流が図られるよう検討中である。</p>
重点項目④	

## 2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	ホームの理念を「一人ひとりを大切にゆったりとした生活を送る」として、誰でも分かりやすい表現で玄関にも掲示している。	○	今後、地域との交流を充実していこうと考えていることから、入居者の地域生活に視点をおいた理念を加えていくことにも期待したい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者及び職員は、日々のミーティングや申し送りの際に理念について確認し合い、理念の共有が図られている。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入しており、市主催の生きがいデイサービスに参加している。日常的な地域との交流は少なく、今後、ホームの行事等に参加の呼びかけをしていきたいと考えている。	○	現在、近隣の地域の方々との日常的な交流は少ないが、今後、ホームの行事の際に積極的に呼びかけをして交流が図れるよう実現を期待したい。
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回実施した自己評価及び外部評価での改善点については、理念の作成などできるものから改善を図っている。今回の自己評価については管理者及びケアマネジャーが全職員に説明し、職員から意見を聴取し、話し合いを行い、最終的に介護支援専門員がまとめた。		

グループホーム緑樹の家

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は定期的には開催されず、1回のみで開催である。構成メンバーは、民生委員、地域包括支援センター職員、入居者家族が参画している。会議ではホームの概要説明をしたり、課題等についてメンバーから意見を聞き、改善の検討に活かしている。	○	運営推進会議の定期的開催を期待したい。また、地域の理解を深めたり協力を得やすくする意味でも、自治会、学校、消防等に積極的に参加していただけるように働きかけることにも期待したい。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市とは開設以来連携が図られ、担当者に様々な事項について相談し、アドバイスを受けている。		
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の訪問時には声をかけ、入居者の状況を伝えたり、要望を伺っている。健康状況の急変時には電話で連絡をしている。預かり金の管理については家族の訪問時に報告している。	○	ホームの考え方を伝えたり、新しい職員を紹介したりするためのホームだよりの作成などの検討を期待したい。また、プライバシーに配慮しながら、外出や行事等の様子を写真などで記録してアルバムにし、入居者や家族に見ていただけるような機会づくりなども期待したい。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書に相談・苦情の説明はあるが、苦情責任者や市、国保連等の明記はない。意見箱は設置されていない。家族会は組織されていない。	○	重要事項説明書に相談・苦情の責任者や市及び国保連等の連絡先を明示することを期待したい。また、運営推進会議に家族等の参画はあるが、今後更に家族の意見等が言える場として、家族会の組織化の検討を期待したい。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	以前は法人内の人事異動があったが現在は異動はない。異動があった場合は、入居者のダメージを防ぐために入居者及び家族に説明して理解を得ている。		

グループホーム緑樹の家

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内研修については、職員は積極的に参加している。外部研修、特に県、市主催の研修については職員が交代で参加し、研修報告書をもとに他の職員に伝達している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県のグループホーム協会に加入しており、サービスの質の向上を図るために研修などに積極的に参加して情報交換を行っている。	○	市内の他ホームとの相互連携を深めたり、勉強会等を通して更なる質の向上を図っていくためにも、近隣のホームとのネットワークづくりの検討などを期待したい。
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人や家族にホームの見学や体験をしてもらい、分かりやすく説明を行い、適宜相談にのりながら、本人が安心して、納得して利用できるように本人の意思を尊重して支援している。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者と日常生活を営む中で、入居者から学ぶことが様々な場面で数多くあり、「入居者は人生の先輩である」と職員間で共有されている。		

グループホーム 緑樹の家

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の入居者とのかかわりの中で声をかけ、入居者一人ひとりが求めていることを把握している。希望等の意向の表出の困難な方は家族の協力を得て、意向の把握に努めている。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	月1回ケース会議を行いながら、本人や家族と相談して意見や要望を踏まえて介護計画を作成し、説明して同意を得ている。また、月1回の職員会議で職員の気づきや提案を話し合い、それらの事項について介護計画に反映している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の見直しは、3ヶ月を目安にしており、状態の変化時には本人、家族と話し合い、見直しの検討を行い、適宜見直しが行われ家族の同意を得ている。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	運営法人が医療法人であること、ホームも医療連携体制加算を受けていることから医療的処置を受けながらの生活の継続が支援されている。また、併設の老人保健施設の入居者との交流が図られている。		

グループホーム緑樹の家


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及び家族が希望するかかりつけ医での受診を支援しており、受診や通院の際には必ず職員が同行し、必要時に受診結果などを家族に報告している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期の対応については契約書に掲載されており、現在対応しない方針である。	○	本人や家族が安心してサービスが利用できるように、現在是对応していなくても、重度化したときや終末期の支援・対応について、職員間の話し合いを繰り返していくことに期待したい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入居者一人ひとりのプライバシーを尊重して日々の声かけや対応について職員間で統一を図りながら支援している。また、記録等の個人情報の取り扱いについても気をつけている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れはあるが、日課は特に決めていない。訪問調査時には自室でテレビを見たり、リビングのソファで入居者同士で談笑したりと、入居者一人ひとりが思い思いに過ごされていた。		

グループホーム緑樹の家

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食材は食材管理会社より宅配されており、その献立表を参考にしながら入居者の好みに応じて調理している。職員は同じ物を食していない、一緒に食事していない。	○	職員が入居者と一緒に同じ物を食することは、入居者とのコミュニケーションを図るうえで大切なことであり、また会話によって食事の嗜好などを把握する機会ともなるので、今後、入居者と一緒に食事をとることの検討を期待したい。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	現在は週3回（月・水・金）の午前、午後2回の入浴を実施している。また、希望によりいつでも入浴できるよう対応している。		
<b>(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	レクリエーションとして習字やはり絵、月1回の外食の機会を設けるなど、入居者と相談しながら対応している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	外出は多い時には月3回程度のドライブや近隣のスーパーへの買い物等、入居者の希望に応じて対応している。また、外出をしない方はホーム周辺を散歩するなどの支援をしている。		
<b>(4)安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	入居者の心理的な圧迫感に配慮しながら支援しているが、ホーム周辺の危険度もあり、室内からロックしている。鍵をかけることについては、家族に了解をとっている。	○	見守りや声かけといった職員の連携、近隣の理解を得ての見守りのネットワークの確立など支援の充実を図りながら、鍵のないケアの実践を追求していくことに期待したい。

グループホーム緑樹の家

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年1回ホーム独自で避難訓練を実施している。地域の協力体制づくりについては特に行っていない。	○	消防署や消防団の協力を得ながら定期的な避難訓練の実施に向けた検討をしていくことに期待したい。また、その際には地域での協力体制なども併せて検討することに期待したい。
<b>(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食材の宅配を利用しており、栄養バランスも把握している。水分摂取についても配慮されている。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
<b>(1)居心地のよい環境づくり</b>					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の生活空間（リビング、ダイニング、浴室、トイレ等）の設備や調度品はいずれも家庭的なものを用い、入居者と相談しながらホーム内の飾りつけなどを行っている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、和室・洋室の2通りあり、入居者の使い慣れた家具や生活用品が自由に持ち込まれている。ある居室にはテレビ・冷蔵庫などがあり、入居者が居心地よく過ごせるように配慮されている。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。